# 協同

[特集] 持続可能な地域農業に向けた集落営農組織の連携・広域化の取組み

2023 March KYODO 3



( タッグ!//

# 兵庫の農業人



生産者の皆さんとタッグを組んだ 多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中! ▶

► YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



### ニラの産地化に向け、

## 新規販売先の開拓等に取り組む

ラの生育状況について話す藤川さん(左)と足立さん



ニラ生産者

#### 藤川克弘さん

JAみのりや全農による労働力 支援もあり、農業を続けられて います。これからも、健康第一 に頑張りたいです。また、安全・ 安心なニラを生産し続け、よ り多くの人にニラを食べて もらいたいです!

加東営農経済センター 係長 営農指導員



JAみのり

ここ数年、ニラの出荷量は増加し ています。今後も、より多くのニラ を出荷し、JAみのりのニラを広め るため、生産者の育成や売り先 の確保に向け取り組んでいき ますし

JAみのりは、ピーマン、タマネギ、ニラなどの生産振興 に取り組んでいる。特に、ニラは、近畿圏に主な産地がな いため市場ニーズが高いことと、機械などの初期投資が 比較的少なく栽培できることから、2年前から栽培に力を 入れており、現在、同JA地区の10人の生産者が、約24.5a の面積で栽培している。

加東市高岡地区の藤川克弘さんは、もともと水稲とタマ ネギを栽培していたが、冬場の収入源となる品目を探して いたところ、同JAからの提案によりニラ栽培を始めた。現 在は、14aのハウスで加工用のニラを栽培し、週に24ケー ス(約120kg)を市場に出荷している。

最も作業負担が大きいのが、ニラの長さを整え包装する 調製作業で、全労働時間の約8割を費やす。JAみのり加 東営農経済センターの足立さんは、藤川さんに対して、全 農の労働力支援事業の利用を提案し、昨年10月から12月 の収穫時期に2人の派遣を受け、調製作業の労働力不足 を解消することができた。また、本店と協力し、市場出荷に 向けた出荷規格表の作成や専用箱のデザイン、新規販売 先の開拓を積極的に行っている。

藤川さんは足立さんに対し、「よくほ場で指導してもらっ たり、新しい販売先を確保してもらったり、共に頑張ってい ます」と話す。また、足立さんは「藤川さんは率先してJAの 提案を受け入れ、他の生産者がニラ栽培を進めるために 必要なビジネスモデルを作ってもらっている |と頼りにする。

JAみのりは、ニラの産地化に向け、ニラ生産者を増やす ための研修会の開催や作業マニュアル・栽培暦の見直し、 新規販売先の開拓に取り組む。

#### JAみのりにおけるニラに関する取組み

労働力支援の提案や新規販売先の開拓等に取り組み、 **ニラの産地化**を目指す。

JAみのりの ニラ栽培面積

令和3年度 **13a** ▶ 令和4年度 **24.5a**